

上海気まぐれ日記「上海音楽学院とその周辺」1

08.6.22

上井 真

今回は、上海の中心から少し西側にある上海音楽学院周辺の様子を書いてみます。

上海音楽学院 <http://www.shcmusic.edu.cn/>

1927年の創立。中国では、北京の中央音楽学院か、上海の上海音楽学院かといわれる音楽教育の頂点にある学校です。クラシック音楽から中国古典音楽まで多彩な学部がありますが、現代音楽部では谷村新司が2003年から教授を務めています。

学校の構内ですが、最近、写真のように近代的な建物に改築されました。中に入ると、「一流の音楽教育を行う」「最先端の国際水準を達成する」という横断幕がかかっていました。(07/12)



大幅に再開発された上海音楽学院ですが、優秀歴史建築として、賀緑汀音楽庁が残されています。レンガ造りの風格のある建物で、中は近代的なホールに造りかえられていました。ホール内の写真は、会社の社員の奥さんがヤマハ音楽教室でフルートを習っていて、その発表会が行われた時のものです。(07/12)

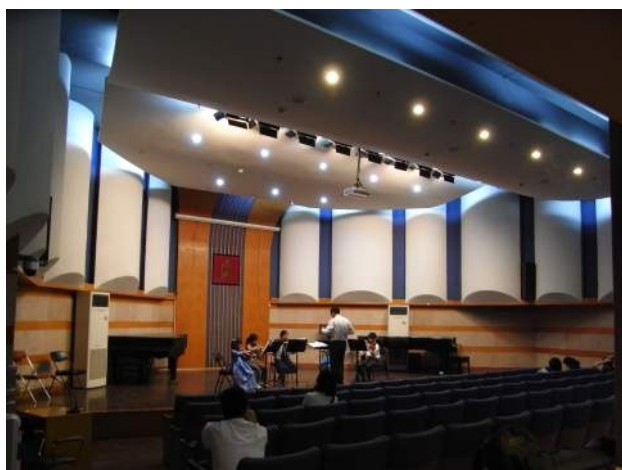
賀緑汀音楽庁



音響もすばらしく、学内にこうした環境が整ってきているのは、上海の文化的な躍進を実感させられます。12月に行った時には、学内の優秀学生による演奏会シリーズが行われているところでした。

その他に、賀緑汀音楽庁よりも奥の高層棟1階に講堂もあり、青木バイオリン教室は、予算の都合もあって、通常こちらで発表会を行っています。5月25日の発表会の最後に青木先生の模範演奏ということで、shanghai stringsのみなさんと「ホルベルグ組曲」全曲をやってきました。

講堂はかなりデッドな音響なので、かなり音を強めに出さないと音が通りづらい感じがしました。演奏の出来の方は、仕事で上海に赴任してきている人たち中心なので、全員が揃って練習できる機会も少ない割に、なんとかまとまったという感じで、バイオリン教室の生徒さんとその家族にそこそこ聞いてはいただけたと思います。shanghai stringsについては、また別の機会にご報告します。



Shanghai strings

